

# 令和元年度 家庭教育オピニオンリーダー研修⑤ 実施報告

実施日：令和元年 10 月 16 日（水）

## ○ 講話「子どもたちを取り巻く現代～ホリスティック教育の観点から～」

白鷗大学教育学部 准教授 荒川 麻里 氏

講師の荒川先生は、白鷗大学で教育制度学、比較教育論、人権教育などを担当されています。また、ドイツの教育、特に家庭教育を専門とされ、ライフワークとして世界中で子どもたちの支援活動を続けてこられました。

今回は、「子どもたちを取り巻く現代の課題～ホリスティック教育の観点から～」と題し、お話しいただきました。失敗しても再び挑戦する試行錯誤の大切さを認識しながら、現実には失敗しないことを求められる競争の中に子どもたちが置かれていること、子どもたちが自分で選択することのできる力を養うこと、つながりを求める子どもたちに大人としてどのように関わるとよいか、など、家庭教育支援に携わる受講者にとって、多くの示唆をいただいたお話でした。

また、講話の中にエクササイズも取り入れられ、「支援者にも支援者が必要」「しっかり見つめる」「受容的態度」といった内容について、受講者は体験をとおして気付き、考え、学ぶことができました。



## ○ 説明・演習「遊びの中で学ぶ子どもたち」

栃木県幼児教育センター 幼児教育専門員 栗田 英子 氏

幼児教育専門員の栗田先生は、認定こども園黒羽幼稚園の理事長・園長でもあります。

はじめに、幼児期の子どもの特性や発達について栗田先生から説明をいただきました。子どもたちの遊びが、その子の心と身体の育ちを支えていること、そして幼児期の遊びが成人期以降の健康にも影響を与えることなど、遊びがいかに大切かといった内容でした。また、子どもに関わる大人として、「モデルとしての役割」「温かく受けとめる役割」「褒めて伸ばす役割」の3つの役割の重要性についてもお話がありました。更に、子どもに対するちょっとした言葉掛けのリフレーミングについても、言い換え方の例を具体的に演技を交えてお話いただきました。

後半は、子どもたちが楽しめる活動を教えていただきました。紙鉄砲や手遊び、わらべうたなど、受講者は体験をとおして「楽しさ」「心地よさ」を感じていました。「21世紀を担っていく子どもたちには、たくさん遊んで、楽しく遊びながら、いろいろなことを学んで、心も身体も大きく健やかに育てほしい」とのまとめが印象的でした。



## ☆受講者の声（アンケートから）

- ・子どもたちに「選択させる」教育が、生きる力を付けることになるのだと思いました。
- ・自己肯定感を育てる重要性に、改めて気付かされました。
- ・誰かを支える人を支える人が必要で、人がつながることが重要ということ学びました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで  
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp